

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100172		
法人名	株式会社権兵衛		
事業所名	グループホームごんべえ (2ユニット共通)		
所在地	焼津市塩津135-1		
自己評価作成日	令和5年 8月 1日	評価結果市町村受理日	令和6年 1月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和5年 11月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

想いを紡ぐ 時を大切にし一人ひとりの行きたい、食べたい、やってみたい“想い”を大切にします。をモットーに日々活動しています。そのために認知症の人ではなく利用者個々の人生に寄り添い心が元気になるケアを心がけています。日々の会話や家族との話の中で利用者個々の今までの人生を知り、思いつく事を積極的にやります。
介護を仕事にする職員たちも楽しく働き甲斐をもって仕事することも大切にします。介護は介護を受ける人だけが幸せじゃ成り立ちません介護をする人もまた楽しく働き甲斐を持つ必要があると思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中にあり、建物は一軒家である。目の前には小学校があり、子どもたちの姿や声が聞こえ安心して暮らせる環境である。運営推進会議に行政職員、地域包括職員、自治会副会長、町内会長、小学校、障害者グループホーム、地域のミニデイサービス、家族、多くの方々が参加され情報を得ることが出来る。防災訓練でも地域住民の参加があり、地域との協力体制を築いている。重度化や終末期に向けた看取り介護では、家族の意向を伺い関係者と共有をし安心した最期を迎えられるよう支援している。外国人実習生を3名受け入れ、介護技能実習評価試験取得合格に向けて日々学んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に壁への掲示に加えて、会議などで度々伝えたり、研修をこまめに行って言葉だけではなく実践もできるようにしています。	令和5年4月に、今を大事にしたいという考えから新しい理念を作成した。食べられる今、行きたい今を大事にして支援していく。事務所や施設の中に掲示し確認し、利用者に関わる職員や全ての人、月2回の職員会議で理念を共有し支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ等感染症以来あまり交流ができていないが、今年度より徐々に交流を増やしていく予定です。	本年は夏祭りは開催されなかったが施設で駄菓子屋を開き、近隣から子どもたちをはじめ地域の方々が70名くらい参加した。今後も地域の人たちと触れ合う機会を多く持ちたいと考えている。自治会に加入し回覧板を回している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度より新委員会を新設し、認知症についての理解や認知症になってもあきらめない生活を支援していくための取り組みを始めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見や情報を頂き日々のサービス向上に努めています。	令和4年度から対面で会議を開催している。家族代表、行政、地域包括の職員、自治会副会長、町内会長、小学校、地域の福祉事業所などが参加し事業所の状況報告を行い地域や学校からの意見などに対し話し合いの場を設けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	二ヶ月に一度の運営推進会議で意見交換を実施。特にわからないことがあればその都度ご相談させていただいている。	認定更新時の訪問日時の連絡を取り合い、また生活保護者が1名入居しているので生活の状況を報告し受診券などの手続きをお願いしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年二回の身体拘束の研修に加えて認知症の研修も定期的実施し、また入社時にも研修を実施しています。	身体的拘束適正化検討委員会を開催している。また身体拘束研修を年3回実施している。実際に職員が拘束を体験し、感想などを話し合い職員の共有意識を図っている。玄関の鍵は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を定期的に設け、全職員への周知に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議で定期的に研修の機会を設けています。成年後見制度については今後学ぶ機会を作り職員へ勉強会を開き理解を深めたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明時疑問点や不安点など確認しながら説明している。また不明点あればいつでも声をかけていただくように伝えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とのコミュニケーションを大切に日々の会話の中から意見などをくみ取るようにしている。ご家族とも面会時等意見を聞かせてもらっています。	事業所に意見箱を設置したことを家族に周知している。面会時や行事に参加した際に、家族からテレビばかり見ているのではないかなど、事業所での生活の様子について意見交換がされている。	意見箱の設置や面会時に意向を伺っているが、全ての利用者、家族に例えばアンケートなどを実施し多くの意見を反映に繋げることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	二ヶ月に一度職員の面談を実施し対話をする時間を設けています。その他にも日々の関りを通じて変化に早く気づけるように心がけています。	管理者、主任、リーダーが分担し職員の面談を行っている。年5～6回の面談で常に職員の意見を聞くようにしている。令和4年に配置の見直しを行い職員の変更があったのでコミュニケーションを図るよう心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に目標を設定し仕事に取り組んでいただいている。また、プライベートも充実していただけるよう希望休には最大限の配慮をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	技術面でも精神面でも、知識面での向上が図れるよう内部研修を繰り返し実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加時など他事業所参加者との交流を深め広げています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生きてきた生活を大切に心がけが元気になるケアを心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時に困っていることや要望などを確認に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・問い合わせをいただいた際に、ほかのサービスについても説明しご本人、家族にあったサービスが提供できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場なので家事活動はもちろん職員、利用者と協力しながら炊事や洗濯ものなどの家事を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の昔の様子を聞かせていただいたり、住んでいた家を教えていただいたり、昔からの馴染みの生活に近づけるよう家族からも情報を共有させていただき共に支えられる様心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅外出などご家族の協力の元一緒に取り組んでいる。また、職員も同行させていただくこともある。	以前は自宅へ帰られた時に美容師である家族が髪をカットする事があったが、今は訪問美容を利用している。墓参りは家族または職員が同行している。近隣の小学生が事業所に寄ってくれ、継続的な交流が出来るよう心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活歴や性格の相性などにより、合う合わないがあるが、座席の配慮をし利用者同士の関りや支えあいができるような配置をこころ掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去や死去された後もご家族との縁を大切に、近況報告などしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の想いを大切に、個々の生活リズムに合わせています。	入浴時間や、夜中のご飯お酒、毎日コーヒーを飲みたいなど利用者がどのように暮らしたいのか、何をしたいのか一人ひとりの把握に努めている。また生活歴から、農業を営んでいた利用者に対しては、農家の承諾を得て職員が同行して稲刈りの体験をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビューにてこれまでの生活歴について聞き取りを実施している。入居されてからは、日々の生活中でご本人よりお話を伺ったり、家族来所時に昔の写真を見せて頂いたり、より深いお話を聞かせていただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々生活の中での小さな変化や反応の良かったレクリエーションや家事活動などを探し、見つけた際には会議や日々の申し送りにて共有し、一人ひとりにあった一日の過ごし方を把握し、共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の訴えや、家族などからも意見を頂きケアの在り方をアセスメントを定期的実施しています。	利用者職員を4グループに分けてグループ毎モニタリングを行い課題を出し合い検討している。家族や理学療法士、薬剤師など必要な関係者から意見をいただき介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランチェックシート、ケース記録、個別連絡ノート等の記録を記載し、情報を皆で共有し、必要に応じて介護計画の変更を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望により、個別外出や必要に応じて通院の支援を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状あまりできていないが今後地域での祭りや活動に参加していく予定です。防災訓練には参加を少しづつできている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の訪問診療を受けています。体調不良時にはすぐに相談し適切な対応ができています。	協力医は月1～2回、歯科医は週1回定期往診がある。また利用者全員協力医療機関を利用している。突発的な皮膚科等の受診は職員が同行して受診の内容や変化をご家族に伝えるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや直接の声掛けをし看護師との情報共有はできています。毎日来て利用者の様子を見ており、夜間など急変時にも対応してくれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は地域連携室に状態確認の連絡をし、退院時には退院カンファレンスに参加し退院後の生活指導を受けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての説明と意向確認をしている。また状態が大きく変化が見られた際には看護師、主治医を含めて話し合いを実施している。	重度化した場合『重度化対応に関する指針』で説明をし意思確認をしている。医師、看護師、家族、職員で話し合い事業所で出来ることを確認し今後の方針を共有している。近年で6名看取り介護を行っている。ターミナル後のカンファレンスも実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を実施したり、マニュアル対応の見直しも随時行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に研修を実施している。また技能実習生も多いため三者間同時通訳を使用している訓練も行っています。	年3回避難訓練、消火器の使い方など行っている。夜間を想定した訓練も実施している。消防署や小学生の参加があり、非常用食料を3日分備蓄している。また地域の防災訓練に参加し、地域との協力体制を確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助時に説明と同意を頂いている。また、協力が得られない際は時間を置いたり対応しています。介助方法もここに合ったやり方を研修会を開き指導しています。	居室、トイレのドアの開閉に注意を払い、1対1の支援を心がけている。プライバシーを損ねるような言葉かけをせず、利用者の気持ちを大切に支援するよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴準備や入浴時間など本人へ希望を確認する様になっています。ケアの際には説明と同意を頂き自己決定を促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切に、その日の体調や気分に合わせて活動への参加を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備や入浴時間など本人へ希望を確認する様になっています。また起床時には整容を行い、本人の希望に沿った支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は毎食の汁物と毎週水曜日のみ食事作りを実施しています。食べたいものなどを聞きながらメニューを考えているが、買い物になかなか一緒に行けていない状況です。	水曜日の食事やおやつ作りを利用者と共に行っている。買い物は今は一緒に行けないが、徐々に様子を見て行きたいと考えている。また実習生の郷土料理等も楽しんでい	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は随時情報共有し、状態に合わせて提供しています。また、自助具を使用したり、梅干しやヨーグルトをつけるなど本人の昔からの習慣にも合わせて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生管理指導を受けている。また、個々にあった衛生用品を使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パッドの種類の変更やRHパンツから布パンツへ移行などをしオムツの使用量の減少と排泄の自立支援に取り組んでいます。	トイレでの排泄を大切にするために時間を見計らって声かけを行ない誘導している。身体機能に応じて車椅子介助、歩行介助を行っている。紙パンツ、パット類は利用者に合わせて業者とも検討を重ねている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には、ヨーグルトを提供したり、一度玄米を提供した際お通じ改善が図れたため再度朝食のみ再開しようと検討中です。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に沿って、午前、午後、就寝前に入浴させている。ゆっくり入れるよう一対一での対応をしています。	個別で時間に合わせた入浴をしている。水が苦手などで入浴を拒む利用者には、20分から30分ぐらい時間をかけ対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	長時間の座位が大変な方は日中も静養時間を設け、夜間寝れない方は気持ちが落ち着くまでお茶を飲んだり談笑しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬変更時は業務日誌などで記載し状態の変化に注意するよう促しています。また随時薬の必要性等訪問診療時に確認を取り内服薬の見直しも行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を知ることや日々の会話の中で食べたいもの、行きたいところややりたいことを聞き実行しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族のご協力のもとお墓参りや季節のお花を見たりと日常的に外出しています。	近隣へ午後散歩に出掛けたり、数人でのドライブなどを試みている。家族と一緒に墓参りに出掛けるなど、積極的に外出できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の駄菓子屋やスーパーへの買い物へ行き、自分で選んで買い物をされる方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている方もいますが、ご要望があった際はご家族のご協力の元お電話させていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った掲示物を制作したり、利用者同士の意見を聞きながら座席を検討している。	クリスマスやハロウィンなど行事に関係する装飾や、秋は紅葉、春は桜の木など季節の壁画を職員と一緒に作成し掲示している。めだかや金魚を飼って家庭的な雰囲気を出し居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席以外にもソファが置いてあるためソファでくつろぐ方もいれば皆様と談笑を楽しめるように座席の配慮をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた自宅で使っていた家具を持ち込まれている方や遺影や位牌をおいている方もいます。 なるべく居室は荷物がかさばらないように季節似合わないものはご家族の協力もあり持ち帰って頂いています。	テレビ、タンス、座椅子、化粧台、参考書、家族の写真など個々に大切な物や安らぎを得るような馴染みの物で落ち着いて過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に張り紙をするなどしています。 またフロアを往来する際に階段から行ける方は職員見守りの元階段を使用しています。		